

## 1 教育活動の目標と自己評価

### 1 学習指導

【目 標】「スクール・ポリシー」を基に、グランドデザインを活用し、農業科、普通科の特色を最大限に生かした授業を行う。

- (1) 習熟度別学習を実施して、基礎・基本の定着を図った。
- (2) 読書活動等を行うことにより、言語活動の充実に取り組む。→図書館の利用者、貸出数ともに増加した。
- (3) 生徒の学ぶ意欲に応え、生徒の力を最大限に延ばすためのツールとして ICT などのデジタル技術を活用した教育を推進する。→ICT を活用した授業が標準になりつつある。
- (4) 統合型公務支援システムや Microsoft Teams の活用を推進する。→利用率は向上した。
- (5) 「課題研究」の授業を通して、課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育成した。
- (6) 農業クラブの活動を通して、知識や技術の習得、表現力の向上を図り、活動が活発化した。
- (7) 食品化学科において、GAP 教育では「GAP する」の理念に基づく農場の整備、HACCP 教育における衛生工程管理学習の充実を図った。スマート農業では IoT 機器から得られるデータの活用を推進するために全日制の気象センサーから得られるデータ活用を令和7年度に行う。
- (8) 「指導と評価の一体化」を図り、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を通して各教科における資質・能力を育成した。
- (9) 教員による年2回以上の相互授業参観を実施するとともに、年2回の生徒による授業評価アンケートを行なった。

### 2 進路指導

【目 標】組織的・計画的なキャリア教育を行い、生徒の第一希望をする進路を実現する。

- (1) 進学希望の生徒に対応した補充指導等を充実させ、専門学校等への進学を実現させた。
- (2) ハローワークと連携して早期からの情報提供などを行い、就職希望者の支援を行った。
- (3) 進路意識の明確化を図るため、資格取得指導を推進した。
- (4) 学年・進路指導部が連携して正確な公文書（調査書・推薦書）を発行し、事故の未然防止を図った。

### 3 生活指導

【目 標】「スクール・ポリシー」に基づき、学校生活における基本的なルールの定着を図り、授業規律を確立し、心身ともに健康・健全な生徒の育成を図る。

- (1) 生徒が安心・安全に学校生活を送ることができる学校づくりを推進した。
- (2) 情報機器の正しい使い方や情報モラルの習得等、情報モラル教育を充実させた。
- (3) 教育相談委員会を定例開催し、支援を必要とする生徒に関して情報交換し、スクールカウンセラー・ユースソーシャルワーカーと連携しながら、ケース会議など具体的な対策を実施した。

### 4 特別活動・部活動

【目 標】生徒会、委員会、部活動、農業クラブ等の活動を充実させ、生徒の主体性を育成する。

- (1) 給食等を活用した食育を展開し、食の安全・安心の重要性を生徒に理解させた。
- (2) 部活動への加入率を向上させ、生徒の主体的な活動を促進した。
- (3) 生徒の学校内外での生命の安全を確保するために、生活安全に関する教育を充実するとともに、体験的・実践的なセーフティ教室や災害発生を想定した避難訓練などの充実に努めた。

### 5 健康づくり

【目 標】生徒の健康に関する理解を深めさせ、心身ともに健康で安全な生活を送る基礎を培う。

- (1) 生涯を通じて心身ともに健康で安全な生活を送る基礎を培うために、健康教育を推進した。

- (2) 「TOKYOACTIVE PLAN for students」を参考に、「体力テスト」の結果を基に、体育の授業をはじめ学校生活全般を通じて、より積極的に運動やスポーツに親しむ生徒の育成に努め、体力の向上を図った。

## 6 募集・広報活動、地域交流等

【目 標】積極的に学校の取り組みを情報発信することで、応募倍率の増加を目指す。

- (1) 「人間と社会」では近隣施設と連携して社会貢献の精神を育成した。
- (2) 体験入学や授業公開の充実を図り、募集対策を強化した。
- (3) 教員による中学校訪問を行い、定時制課程の教育内容や特色について理解を図る。定時制学校案内のリニューアルを図り、より教育活動や魅力が伝わるようにした。

## 7 学校経営・組織体制

### (1) 経営企画室

- ① 自律経営推進予算を中・長期的な視点から計画的・効果的な執行に努めるとともに、経営企画室を中心とした適正な予算執行、施設管理を行なった。
- ② 積立金等の納入を適切に管理し、延滞者を減らし、未納者を0（ゼロ）にした。
- ③ 経営企画室、各分掌、各委員会の連絡を密にし、組織的な課題解決力を強化した。
- ④ 個人情報紛失事故の根絶に向けて、定期的な校内研修を通じて教職員の意識向上を図った。
- ⑤ 省エネ委員会の主導のもとに全校的な取り組みによる省エネルギー対策を推進した。
- (2) 特別な支援を必要とする生徒に対して、生徒個々に応じた指導内容・方法を構築した。
- (3) 全教育活動から体罰等を根絶するための取組

- ① 体罰を根絶するため、服務事故防止月間等を活用して教員研修を実施した。
- ② 体罰をチェックする機能を強化した。
- ③ 体罰を容認する風土をつくらない。
- ④ 体罰のない部活動を推進した。

### (4) いじめを防止するための取組

- ① 未然防止のために、教員の指導力の向上とスクールカウンセラー・ユースソーシャルワーカー等の活用等、組織的に対応した。
- ② 早期発見のために、定期的な「生活意識調査」を実施し、いじめの確実な発見に努めた。
- ③ いじめを把握した場合には、対応方針を策定し、学校全体で取り組む体制を構築した。
- ④ 重大事態が発生した場合には、保護者、警察署等の関係機関と連携し、被害生徒を守る。
- (5) 生徒の自殺予防のために担任、スクールカウンセラー等との面接など日常的な教育相談活動を通して、生徒の心の安定を図った。また、ユースソーシャルワーカーを活用して不登校生徒への支援、中途退学防止等に努めたが、学校不適応生徒を減らすには至らなかった。
- (6) 学校通信、進路通信、学年通信、学科通信、保健通信などの分掌通信の発行を充実させた。
- (7) 月当たり在校時間が45時間を超える教職員を0（ゼロ）にするなど、教職員のライフ・ワーク・バランスの取組を推進した。
- (8) 施設委員会を中心に、校舎の改築及び改修工事の計画について組織的に取り組んだ。

## 2 令和6年度の重点目標と方策、数値目標

### 1 基礎学力の向上 生徒の学校満足度 80%以上

(実績 R1 : 70%、R2 : 76%、R3 : 79%、R4 : 78%、R5 : 76%、R6 : 79%)

- (1) 学ぶことの楽しさや大切さ、継続して努力することの大切さを体験させた。
- (2) 学校図書館の本や新聞等の図書資料を活用した調べ学習により、情報を収集・選択する能力を育成した。

- (3) 食品化学科の「課題研究」を通して、プレゼンテーション能力を向上させた。
- (4) 農業クラブ都連盟大会や全国大会（農業鑑定競技会に出場）へ参加し、体験を通じて表現力や専門分野の知識・技術の向上を図った。
- (5) 食品衛生責任者、日本農業技術検定、英語検定などの資格取得指導を充実させ、アグリマイスター顕彰へつなげる。→アグリマイスター・シルバー認定者1名を達成した。

## 2 生徒の希望する進路の実現 進路決定率 80%以上

（実績 H29：78%、H30：73%、R1：71%、R2：68%、R3：80%、R4：91%、R5：88%、R6：100%）  
学校あっせんでの就職希望者全員の内定につなげた。進路決定率は100%であった。

- (1) 進路指導部と学年との連携を図り、組織的な進路指導を実施した。
- (2) ハローワーク等と連携し、外部講師を活用した講演会等を実施し、生徒の進路意識を高めた。
- (3) 「総合的な学習の時間」では、自己実現や進路選択について自ら課題を見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を身に付けさせた。

## 3 組織的な生活指導体制 遅刻の10%減少

（実績生徒一人当たり R1：18.0回、R2：9回、R3：9.4回、R4：13.0回、R5：8.9回、R6：14.1回）

- (1) 人の話をしっかり聞く、時間を守るなど、規範意識の徹底を図った。特定の生徒に課題が残った。
- (2) 就業や生徒の実態等に考慮して指導し、安易な遅刻や欠席が減少するように努める。
- (3) 生徒の健康づくりや事故・事件に巻き込まれないために、薬物乱用防止、交通安全教育のセーフティ教室を年間2回実施した。
- (4) 学校への帰属意識を養うために、校歌指導を毎学期の始業式・終業式に実施した。
- (5) 特別支援教育への理解を深め、特別支援コーディネーター・自立担当支援教員を中心に特別な教育的支援が必要な生徒に対して必要な指導・支援を適切に実施した。

## 4 広報・募集活動の推進 全学科の入選応募倍率：0.7倍

（実績（一次・二次合計） R1：食品化学科0.40倍、普通科0.30倍）

（実績（一次・二次合計） R2：食品化学科0.37倍、普通科0.23倍）

（実績（一次・二次合計） R3：食品化学科0.33倍、普通科0.23倍）

（実績（一次・二次合計） R4：食品化学科0.33倍、普通科0.26倍）

（実績（一次・二次合計） R5：食品化学科0.37倍、普通科0.40倍）

（実績（一次・二次合計） R6：食品化学科0.36倍、普通科0.20倍）

- (1) ホームページの更新、学校案内の中学校への配布等を通して、教育内容を発信した。→ホームページの更新回数は50回であった。ホームページを中心としつつSNSでの発信を強化する。
- (2) 学校説明会・学校見学会を3回以上実施し、教育内容を発信した。

## 5 地域との連携事業の充実 地域連携事業実施回数15回

（実績 R1：15回、R2：0回、R3：15回、R4：15回、R5：6回、R6：18回）

- (1) 「人間と社会」を通して、地域の一員として活動することの重要性を学習させた。
- (2) 地域の福祉施設と連携し、本校で生産したジャムを使ってコラボレーション商品を開発し
- (3) 全国販売（府中市のふるさと納税返礼品）につなげるなど、本校の取り組みを発信するとともに、地域の共生社会の実現に向けた取り組みを行った。この取り組みに対して、令和6年度児童・生徒等表彰の被表彰者として東京都教育委員会から表彰を受けた。
- (4) 11月に実施した農高祭では、生徒会役員を中心に学年を越えた交流が図られるように工夫し、展示、生産品販売、体験コーナーに全ての生徒が参加し、学年やクラスを通してお互いの関係を深めることができた。
- (5) 取得した資格等
  - ・初級バイオ検定 2名

- ・農業技術検定 2 級 2 名
- ・食品衛生責任者 3 名
- ・情報処理検定 3 級（表計算） 3 名
- ・アグリマイスター顕彰 シルバー 1 名

## 6 学校評価

- ・学校生活に対する満足度では生徒 71、保護者 80%であった。入学した事への満足度は生徒 80、保護者 95%であった。
- ・授業の分かりやすさに関しては生徒 78、保護者 70%で、教員は 93%であった。学力の向上については生徒 78、保護者 80、教員 93%であった。教員が感じている水準までには至っていなかった。
- ・学び方、教え方改革につながる ICT 活用などのデジタル化に関しては生徒 52、保護者 65、教員 67%であり、いずれも低い数値となった。
- ・生活指導への満足度では、生活規律の指導では生徒 75、保護者 84、教員 67%であった。相談体制に関しては生徒 77、保護者 89、教員 100%で、いじめと体罰をなくす指導では、生徒 64、保護者 53、教員 100%であった。さらに生徒に寄り添う指導が求められている。
- ・進路指導の満足度では、生徒 54、保護者 60、教員 83%であった。生徒・保護者評価の低さの分析を行い、進路指導計画の点検を行う。